



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第一三九号〜

秋分 しゅうぶん

九月二日



## 正倉院という色

春夏秋冬にも、青春、朱夏しゅうか、白秋はくしゅう、玄冬げんとうという異名のように季節にも色が  
あります。

先日、伊賀くみひもの店の「くみひも平井」の平井武央さんに、組み紐の  
魅力は何ですかと尋ねたら、すぐに「色です」と答えが返ってきました。

組み紐は天然素材の中でも高級な絹糸を主に、金糸や銀糸などを使い伝統  
的に組んでいきます。その際、基本となるのが七色だといいます。

紫、紺、辛子からし（黄色）、利休りきゅう（緑色を帯びた灰色）、臙脂えんじ（濃い紅色）、  
錆朱さびしゅ（くすんだ朱色）、ベージュの七色です。

これらの色を、伊賀の組み紐屋さんには、「正倉院」と呼んでいるのだそう  
です。奈良にある正倉院といえば、奈良の大仏を建立した聖武天皇ゆかりの  
品々が納めてあり、中国はもとより遠くシルクロードより運ばれた渡来品も  
多く見られます。

組み紐もまた天平の頃に、大陸の文化とともに日本にもたらされてきたと  
いわれています。それゆえに、古来の色を「正倉院」と呼ぶのかも知れませ  
ん。伊賀くみひもは、この「正倉院」の色をベースにして、黒色を入れたり、  
パステルカラーを加えたりして、組み紐独特の妙を生み出しているのです。

組み紐は、時代ごとに使われ方も変わってきました。平安時代には貴族の  
装束に使われ、鎌倉時代には武士の兜や鎧に、茶道が盛んになると茶道具に  
も用いられましたし、江戸時代には武士の刀の下緒さげとして重宝されました。  
そして、今は帯締めや羽織紐など、和装には欠かせないものとなっています。  
そこには、時代を越えて日本人の心をとらえた正倉院という色があったので  
はないでしょうか。

文 千種清美

